

東京大学

理学部広報

第2巻 第9号 昭和45年10月15日

内 容

理学部会合日誌	2
教授会メモ	2
外国人研究員	2
大学院入試関係	3
未網名誉教授の逝去を悼む	3
お知らせ	4

9 月 理学部会合日誌

- 9 月 1 日 (火)
 2 日 (水) 入試委員会 (修士) (14.00~17.00)
 3 日 (木)
 4 日 (金)
 5 日 (土)
 6 日 (日)
 7 日 (月)
 8 日 (火)
 9 日 (水) 教務委員会 (15.00~17.00)
 10 日 (木)
 11 日 (金) 会計委員会 (10.30~14.00)
 12 日 (土)
 13 日 (日)
 14 日 (月) 理学系研究科委員会 (14.00~17.00)
 15 日 (火)
 16 日 (水) 教授会 (13.00~17.00)
 17 日 (木)
 18 日 (金)
 19 日 (土)
 20 日 (日)
 21 日 (月) 教室主任, 教務委員合同委員会 (14.00~)
 22 日 (火) 入試委員会 (14.00~15.00)
 23 日 (水)
 24 日 (木) 主任会議 (13.00~15.00)
 25 日 (金)
 26 日 (土)
 27 日 (日)
 28 日 (月)
 29 日 (水)
 30 日 (水)

4. 研究生入学の件
 5. 人事委員会報告
 委員長島村教授から事務官, 技官系の協議採用並び昭和 45 年度特別昇給 (教官以外の職員) についての報告があった。
 6. 会計委員会報告
 委員長代理高宮教授から昭和 45 年度校費予算配分については教室主任会議にはかり了承を得本教授会において承認された。
 なお, 設備更新費配分案についての説明があったが, これについては各教室における特殊事情もあり会議以後の申出によって再度委員会において調整を行ない次回の教授会にはかることになった。
 7. 寄附の件
 8. 教務委員会報告
 委員長大木教授から 46 年度進学に関する日程についての報告, これに関連した学士入学の問題。および学生から申出のあった休憩時間帯の問題について説明があった。
 9. 幹事会報告
 幹事佐伯助教授から 7 月 16 日 (木) 行なわれた教官懇談会「大学像の諸類型」特に理学部と教養学部との関連について (理広報 8 号参照) の報告があった。
 10. その他
 ○教養学部における全学ゼミナー参加についての協力
 ○東京大学公開講座 (情報) 開催について
 ○昭和 46 年度の非常勤講師の停年特例について
 ○学内状況報告
 ○教育研究に関するアンケートの結果報告

外国人研究員

下記の外国人研究員が承認された。

教室	国籍	現職	氏名	在留期間
情報施設	ハンガリー	ハンガリー 電話公社開 発部技師	Laszlo Uhereczky	昭. 45. 8. 1 ~45. 10. 15
化学	オーストラ リア	クイーンズ ランド大学 教授	L. E. Lyons	昭. 45. 9. 2 ~45. 12. 24

教授会メモ

9 月 16 日 (水) 定例教授会

(13 時~16 時 20 分 於理 4 号館物理会議室)

1. 前回議事承認
2. 任用発令者の紹介 (後藤教授, 国井助教授, 本間講師)
3. 人事異動等の報告 (外国人客員研究員含む)

大学院入試関係

昭和 46 年度

修士課程入学志願者数, 受験者数, 合格者数

昭和 46 年度大学院理学系修士課程第一次入学試験が 10 月 5 日に, 物理学専門課程など 9 専門課程の第二次試験が 10 月 8 日~10 日に行なわれ予定通り終了し, 182 名の入学予定者が内定した。志願者数および試験合格者数は次の通りである。

昭和 45 年 10 月 12 日

専 門 課 程	収容 予定 人員	志 願 者 数			受 験 者 数			第 一 次 試 験 数			第 二 次 試 験 数		
		本学	他大学	計	本学	他大学	計	本学	他大学	計	本学	他大学	計
数 学	27	40	33	73	39	27	66	36	9	45			
物 理 学	55	70	157	227	70	118	188	54	28	82	43	13	56
天 文 学	8	6	14	20	6	12	18	5	7	12	4	2	6
地 球 物 理 学	18	22	12	34	21	9	30	19	5	24	17	4	21
化 学	41	41	20	61	40	18	58	39	13	52	32	8	40
生 物 化 学	22	29	44	73	26	37	63	25	18	43	12	6	18
動 物 学	9	13	16	29	13	16	29	13	11	24			
植 物 学	12	9	13	22	9	10	19	9	9	18	4	3	7
人 類 学	5	5	7	12	5	7	12	5	7	12			
地 質 学	14	8	7	15	8	7	15	8	3	11			
鉱 物 学	4		1	1		1	1						
地 理 学	8	6	17	23	6	13	19	6	13	19	5	2	7
相 関 理 化 学	20	41	16	57	41	14	55	35	7	42	18	3	21
科学史, 科学基礎論	6	10	10	20	10	10	20	7	3	10	5	1	6
合 計	249	300	367	667	294	299	593	261	133	394	140	42	182

備考 2つの専門課程合格者1名(物理学, 地球物理学)

数学専門課程など4専門課程の第二次試験は, 来年1月に行なわれる予定である。

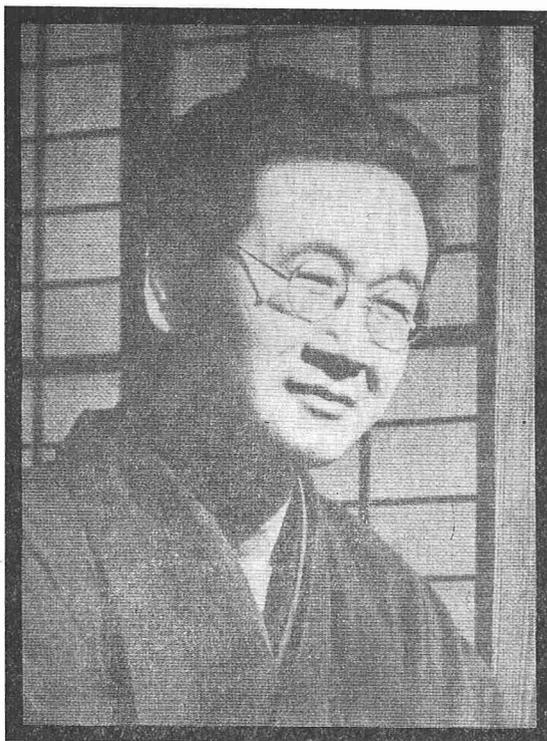
末綱名誉教授の逝去を悼む

末綱恕一先生は本年はじめ以来ご健康がすぐれず, 東京駒込の日本医科大学付属病院に入院されました。ひところ御退院になり自宅療養をされましたが, 6月に再度入院され, 種々の手厚い看護も甲斐なく, 8月6日午後9時, 安らかに71年の生涯を終えられました。御病名は肺臓癌でした。

末綱先生は1898年(明治31年)大分県にお生まれになり, 杵築中学校, 第一高等学校を経て大正11年3月東京帝国大学理学部数学科を卒業されました。直ちに九州帝国大学工学部の講師および助教授を経て, 同13年東京帝国大学助教授に任ぜられました。昭和2年には理学博士の学位をうけられました。昭和2年夏から同6年3月までドイツのゲッティンゲン大学およびハンブルグ大

学に留学されました。そこで E. Landau, E. Hecke の下に学ばれ, また同年代の E. Artin, H. Hasse との親交も始まりました。帰朝後ヨーロッパの新しい数学の空気を東京に移され, 高木貞治先生と末綱先生を中心として毎週金曜日の午後行われた数学談話会は, 今日にいたるまで40年近くもつづいています。昭和10年には教授に昇進され, 昭和34年に停年退職されるまで36年間にわたって, 理学部のためにつくされました。先生は, 代数学, 整数論, 確率論および統計学, 数学基礎論, 数学史など多方面にわたって講義をされ, 数多くの学生を育てられました。昭和18年には学術研究会議の会員となり, 昭和22年には帝国学士院会員に選ばれました。また停年退職されると共に東京大学名誉教授とされました。

先生の専門は解析的整数論で, まず Dirichlet の L



基礎との接合するところに深い洞察を進められました。“数理と論理”（弘文堂），“数学の基礎”（岩波書店）はその一端です。さらに進んで東洋の思想への研究が進められ、仏教の教典を直接に学ばれるに至りました。先生の著書“華嚴経の世界”（春秋社、昭和 31 年）は、仏教学においても高く評価されていると聞いております。先生の仏典への関心は、すでに一高生のころから始まったということです。

先生は、慶応大学工学部の設立や統計数理研究所（文部省直轄）の設立にも関係されましたが、昭和 33 年より、なくなられるまで 12 年間にわたって統計数理研究所長をつとめられました。昨年には新しい庁舎も建設され、ようやくその基礎をかためられたところでありました。

先生は、このように所長というような職に長い間ついておられましたが、先生は、日常の生活においてあくまで数学者として、また哲学者として深く自己に沈潜され、学究としての尊い一生を貫かれました。いつも物静かに、深く思索しておられたお姿が目に見えます。ここに先生が私どもに残された数々の業績と、多くの無言の教訓を偲び、心から哀悼の意を表します。

関数の近似関数等式を求められ、その応用を種々されました。また代数体における約数関数の問題を扱い、すぐれた結果をあげられました。Artin の L 関数に多くの関心を持たれ、それと関連して群指標についての研究もすすめられました。先生の著書“解析的整数論”（岩波書店）は、世界的な名著で、特に Hecke の L 関数についての説明はすぐれたものとされています。先生は、ドイツ留学中、ゲッチンゲンでの新しい抽象代数学をそのまま共立数学講座に執筆されました。それが“整数論と代数学”です。また先生の講義がもととなって、“確率論”（岩波全書），“数学と数学史”（弘文堂）が生まれました。

先生は日本数学会のためにもいろいろと尽されました。理事長、評議員、監事など長年にわたってつとめられました。昭和 25 年には IMU (International mathematical union) の設立総会に日本代表の一人として出席され、また昭和 30 年の東京・日光の代数的整数論の国際会議の会長としての務めを果たされました。

また先生は、科学全般にわたる広い視野のもとに“科学基礎論学会”の創設に尽力し、長年にわたって理事長をつとめられました。この会の発展は、主として先生の努力に負うものです。このような先生の広い視野は、数学基礎論への深い関心と結びつき、特に西田哲学と数学の

お知らせ

○ブリティッシュカウンシル奨学金留学生募集 について

期 間：1971 年 10 月～10 か月
分 野：全分野
給 費：往復旅費、滞在費（家族は除く）
資 格：年令 25～35 才、学部卒業以上
締切日：11 月 9 日

○昭和 46 年度フランス政府給費留学生の 募集について

分 野：仏文学・語学・演出・人文・科学・自然科学・
医学・工学・芸術
詳細は理学部大学院掛まで照会のこと。
締切日：10 月 16 日（金）

編 集 和田昭允（広報委員）
理・1号館 217 号室 内線 2298